

# 年 頭 所 感

## 年 頭 所 感



福島県医師会会長

佐藤 武 寿

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるにあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、新春を健やかに迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。皆様にとりまして輝かしい年であることを祈念いたします。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威をふるい、日本国内においても新規陽性者数が過去最大となる第5波に見舞われました。福島県も同様に感染者数の爆発的な増加によって入院患者数はもとより宿泊療養や自宅療養となる方も過去最多となりました。このような中にありまして、会員の皆様はじめ医療従事者の皆様におかれましては、発熱患者への診療・検査対応をはじめ宿泊療養施設における健康観察対応、自宅療養者の健康観察対応、更にはワクチン接種など様々な取り組みに日々ご尽力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

### 新型コロナウイルス感染症対策について

昨年夏の第5波における急速な感染拡大を踏まえ、感染力が2倍となった場合など最悪の事態を想定し、次の感染拡大への備えとして、診療・検査医療機関の拡充、入院病床の増床や入院待機ステーションの設置、自宅療養者・宿泊療養者に対する健康観察や診療の更なる強化が必要となってまいります。

また、オミクロン株対策も視野に入れた3回目のブースター接種や5歳から11歳のワクチン接種に関しては、国の方針や県・市町村の対応を踏まえながら、円滑な接種が実施できるよう接種体制を速やかに整備しておく必要があります。

これら医療提供体制整備の強化、ワクチン接種体制整備にあたっては、医師会並びに会員の皆様の参画が不可欠であります。引き続き郡市地区医師会と会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 福島県総合計画等への対応について

令和4年度から令和12年度までにおける県づくりの指針や施策を示す県の最上位計画であります「福島県総合計画」が昨年10月、福島県議会において議決されました。県医師会としてもこの計画策定に委員として参加いたしましたが、今後は計画をいかに具現化していくかが重要であります。この計画の個別計画である「福島県医療計画」の策定や振興感染症対策等を含めた事業推進において、積極的に対応してまいりたいと考えております。

### 健康長寿への取り組みについて

2020年人口動態統計によりますと、本県の死因別死亡率のうち、脳血管疾患の死亡率は全国ワースト6位、心疾患はワースト11位、がんはワースト14位と全国下位にとどまっています。また、特定健診でメタボリック症候群に該当した県民の割合が18.4%に上り、全国ワースト4位となっています。これらの指標の改善に向け「健康長寿ふくしま会議」と連携し、食生活の改善や運動不足の解消、循環器病対策推進、受動喫煙防止対策などに取り組んでまいります。受動喫煙防止対策としては、毎年5月の「世界禁煙デー」「禁煙週間」にあわせ、一般社団法人「Tobacco-free ふくしま」をはじめとした各種関係団体とともに正しい知識の普及啓発に努めてまいります。

### 働き方改革と勤務医療環境改善について

2024年（令和6年）4月から医師に新たな時間外労働上限が適用されることとなっております。時間外労働時間の実態を的確に把握するため現在960時間を超える時間外労働をしている医師がいる医療機関の把握に努めておりますが、適宜、社会保険労務士などのアドバイザー派遣を通じ時短計画策定等に関し医療機関を支援したいと考えております。また、2022年度には、時間外労働上限が960時

間に収まらない全ての「B水準」（三次救急や救急搬送の多い二次救急指定病院、がん拠点病院など）「連携B水準」（医師の派遣を通じて地域医療を確保するために必要な役割を持つ特定の医療機関）「C水準」（初期研修医、専門医取得を目指す専攻医を雇用している医療機関）の候補医療機関は評価の受審が必要となってまいりますので、県医療勤務環境改善支援センターが中心となって、各医療機関への普及啓発や研修会、個別相談などの対策に取り組んでまいります。

### 地域包括ケアシステムの推進について

2025年に向け各自治体が地域包括ケアシステム構築に取り組んでいるところですが、その中でも重要な要素である在宅医療の推進は不可欠となっております。令和2年度から県より「福島県在宅医療・介護連携支援センター整備事業」を受託し、関係機関や市町村を対象とした研修会の開催や各地区の在宅医療・介護連携支援センターとの情報交換等各地域の在宅医療・介護連携の推進に取り組んでまいりました。

しかし、地域によって社会資源や抱えている課題も様々のため、今後は、地域の現状の分析、課題の抽出、解決策の検討を行うため、将来の人口動態や在宅医療のニーズの推計など地域医療・福祉に関する将来調査を実施し、県行政とともに適切な医療・介護の連携体制の構築に努めてまいります。

### 医業承継支援事業の推進について

医師の偏在により、人口の少ない過疎地では医師不足が深刻化しており、さらに医師も高齢化し、次世代への円滑な医業承継が喫緊の課題となっております。そこで、地域における医療資源の減少を防ぐことを目的に平成30年度より「医業承継バンク」を設置し、県内の閉院を検討している医療機関と新たに開

業を希望する医師とのマッチングに取り組んでおり、これまでに3件のマッチングが成立し開業しております。

今後も事業の周知をはじめ、調査個別相談会の開催や医業承継セミナーの開催し、開業希望医と譲渡希望医のマッチングを支援し地域医療体制の堅持に取り組んでまいります。

#### 医師会組織率の強化と医師会活動の活性化について

本県における医師会の組織率は、厚生労働省の「医師、歯科医師、薬剤師統計調査」を分母とした医師全体の組織率は66.6%となっており、勤務医で見ますと組織率が56.8%と低い傾向にあります。引き続き、勤務医の加入率を上げる取り組みを進めてまいります。

また、医師会活動の活性化のための体制の整備を検討するとともに男女共同参画社会の実現がクローズアップされている中であっ

て、更なる女性医師の外部委員等の登用に関しましても積極的に推進してまいりたいと考えております。

さて、本会の副会長であります星 北斗先生には、昨年暮に来る7月予定の参議院議員通常選挙(福島選挙区)での出馬を決意されました。本会のみならず、ご本人においても昨年末の出馬要請は青天の霹靂であり、星先生の重い決断に敬意を表するものであります。

私は、本県のみならず、多くの地域で抱えてきた医療の問題を一丁目一番地として国政の場で取り組んでいただけるよう、星先生を参議院に送り出したいと思っております。

会員の皆様には是非ご賛同の上、力強いご支援をいただきますようお願い申し上げ年頭のご挨拶とさせていただきます。

